

平成27年度「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」(共同利用型)
成果報告

近代ロシア子ども史に関する基礎的研究

村知稔三(青山学院女子短大子ども学科・教授)

【申請内容】

フィリップ・アリエスの『子供の誕生』(1960年、邦訳1980年)などを契機に興隆を迎えた日本における子ども史研究から長く欠落してきたのがロシアである。本研究は、そのロシアの1860年代～1910年代について、子ども、特に乳幼児の生存と生活の特徴を、主に量的側面から解明する。特に着目するのは、乳幼児などの子どもを対象に含んだ基本統計書である。これらのデータの変動を、全国値としてだけでなく、子どもの性・民族・宗教・居住地別の値や、親の身分・職業・階層別の値としても掌握したうえで、比率と属性の関連を分析する。

【利用内容】

申請者は2015年8月と2016年2月にそれぞれ2週間ほどセンター図書室と附属図書館を利用した。

その間に閲覧できたのは『ロシア帝国統計時報』『ロシア帝国統計』『ロシア内務省中央統計委員会時報』『ロシア統計年鑑』『ピロゴフ記念ロシア医師協会雑誌』などの該当箇所である。

【成果】

閲覧できた資料などを用いて申請者は、世界子ども学研究会の第15回研究例会(2015年10月24日、青山学院大学)において「現代ロシアにおける子どもの権利をめぐる状況と課題」と題する発表を行なった。この発表は2016年5月刊行予定の『故・佐々木享先生追悼集』(仮題、大空社)に論文として掲載されることになっている(再校終了)。

そのほか、関連資料を生かした拙稿(ともに単著)として、「ロシアにおける子育て支援政策の現状と課題」『海外社会保障研究』第191号(2015年)42～52ページ、「〈各国社会福祉の現状〉ロシア——子どもの現状と子ども政策の特徴:乳幼児と保育を中心に」宇佐見耕一ほか編『世界の社会福祉年鑑』2015年版(旬報社、2015年)205～252ページなどを著した。